





時  
門 95  
號 6661  
卷 6



榮花物語六

御書

つきのふもい母として治安二年月よぬえ上东门院土門ぬみ  
しと百景ぬりぬるふつとていゆをいせんか  
けりていぬりぬるやたつこの回ぬるさ  
つりさぬれもわらうけいけいなりより  
こじわらつとぬるさつ回ぬる例ぬる  
ぬるけいりぬるさつぬるさつぬるさつ  
ぬるさつぬるさつぬるさつぬるさつぬる  
ぬるさつぬるさつぬるさつぬるさつぬる  
ぬるさつぬるさつぬるさつぬるさつぬる  
ぬるさつぬるさつぬるさつぬるさつぬる

昭和二十七年  
四月三十日  
購求



بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الذي جعل القرآن نورا للذين اتبعوا ما فيه من الهدى ونورا للذين اتبعوا ما فيه من الضلال

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

الحمد لله الذي جعل القرآن نورا للذين اتبعوا ما فيه من الهدى ونورا للذين اتبعوا ما فيه من الضلال

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر

والله اعلم بالصواب الذي علم الغيوبة والظاهر





申しよらうのしほもつるよもてまもいひ  
ましよらうのしほもつるよもてまもいひ  
ましよらうのしほもつるよもてまもいひ

大文を更後賢

月鏡のつらつらしほもつるよもてまもいひ  
池のつらつらしほもつるよもてまもいひ  
中を更後賢に

海つらつらしほもつるよもてまもいひ  
海つらつらしほもつるよもてまもいひ  
海つらつらしほもつるよもてまもいひ

後中更後賢に

<sup>手葉下</sup>天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ

天

天兵衛督公信

天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ

天兵衛督公信

天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ

後中更後賢に

天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ

天兵衛督公信

天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ  
天は風やつらつらしほもつるよもてまもいひ



Handwritten text in Arabic script, top section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, middle section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, lower middle section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, bottom section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, top section of the right page.

Handwritten text in Arabic script, middle section of the right page.

Handwritten text in Arabic script, lower middle section of the right page.

Handwritten text in Arabic script, bottom section of the right page.



一 梅子 抄

月夜に梅子の影を照らす  
 影の長さは梅子の心  
 影の短さは梅子の身  
 影の白さは梅子の花  
 影の赤さは梅子の実  
 影の青さは梅子の葉  
 影の黒さは梅子の根  
 影の黄さは梅子の皮  
 影の紫さは梅子の汁  
 影の白濁は梅子の汗  
 影の赤濁は梅子の血  
 影の青濁は梅子の涙  
 影の黒濁は梅子の汗  
 影の黄濁は梅子の汗  
 影の紫濁は梅子の汗



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive script.



こつ中世... 萬歳... 亂... 將... 奏... する... 少將... 乃... しか... につ...

... 乃... しか... につ... 乃... しか... につ...



あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

日條大納言 左住御

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

殿の心 左長

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

小冊長 左長

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

南白大納言 左通

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

西大納言 左通

玉葉殿

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

中宮長 左信

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

左長 左信

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

左長 左信

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

中宮長 左信

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては

あはれなる御心にては  
あはれなる御心にては











いつの舞

万壽元年

日月よるれしかむの心とて世にうつらむふぶの  
<sup>院</sup>鹿之山の舍利と女のえりてはくぬすもばに  
とて舍利會とて舍利とてついでに  
とせ申の心とての心とてまゝ  
めりて小舍利會とて方ははるに  
寺ふつてまゝの心とてまゝ  
との心とてまゝの心とてまゝ  
初めらるゝ心とてまゝの心とて  
の心とてまゝの心とてまゝ  
とてまゝの心とてまゝの心とて  
まゝの心とてまゝの心とて

三

杖のよるれしかむの心とて世にうつらむふぶの

この心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

まゝの心とてまゝの心とてまゝの心とて

















あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも  
あまのついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

二七六

ついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

甲白飯 杉通云

ついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

申文書 舟信云

ついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

氏部云 後受云

ついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

東文書 札宗云

ついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

申文書 大史 能行云

ついでに海をわたるもあまのついでに海をわたるも

雨後右海門督 宣成云

白き石文太史 漢方

白よりらるる石文太史

位中納言 漢方

白波のしづるる石文太史

位左衛門尉 漢方

道にまじりたる石文太史

白波のしづるる石文太史

万代にまじりたる石文太史

位左衛門尉 漢方

道にまじりたる石文太史

位左衛門尉 漢方

道にまじりたる石文太史

漢方

源寧ね

朝臣

源寧ねの御孫

位左衛門尉 漢方

源寧ねの御孫

位左衛門尉 漢方

源寧ねの御孫

源寧ね

源寧ねの御孫

源寧ねの御孫

源寧ねの御孫

源寧ねの御孫

源寧ねの御孫

し 研 じ ぬ け っ ち ぬ ぬ 々 々 力 ず の け っ ち ぬ ぬ 々 々  
さ ぐ け っ ち ぬ ぬ 々 々 他 の け っ ち ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々  
ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々  
ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々 ぬ ぬ 々 々

ぬ ぬ 々 々





